

熊本大学ポータル の 現状報告

計算機援用教育部門

中野 裕司

はじめに

熊本大学ポータルは、2006 年度導入し、既に 6 年が経過している。その間、CAS 対応システムが徐々に増加し、その入り口としての役割を果たしてきた。また、対象を教職員や学生に限定した情報を発信するとともに、SOSEKI や LMS(WebCT)と連動した個人専用の時間割を提供してきた。平成 23 年度は、CAS 対応 Web アプリケーションの追加等の報告を行う。

現状報告

(1) システム構成とデータベースサーバのリプレース

熊本大学ポータルは、オープンソースのポータルである [uPortal](#) をカスタマイズしたものをを用いている。uPortal は、シングルサインオンシステム [CAS](#) をサポートしており、熊本大学統合認証に対応している。uPortal 自体は、Java で書かれた Web アプリケーションで、ポータルの標準規格である Portlet (JSR-168) をサポートしているため、拡張が比較的容易なものになっている。バックエンドのデータベースに関して、標準的ないくつかのものをサポートしており、本システムでは MySQL をプライベートネットワーク上の別サーバで運用してきた。運用上、フロントエンドよりもバックエンドの負荷がかなり大きな状況であったが、平成23年2月のハードウェアリプレース後は問題なく動作している。

(2) CAS 対応アプリケーションの登録等作業記録

平成23年度に新たに行った CAS 対応アプリケーションの登録や修正を新しい順に、以下に示す。

- ver. 1.3.1 2013-12-05 「ID 管理システム」を学生にも公開
- ver. 1.3.0 2013-10-01 ユーザ ID 関係の修正
- ver. 1.2.9 2013-09-19 アンケート入力関係リンクの修正
- ver. 1.2.8 2013-09-19 給与関係, 授業アンケート結果公開システム修正, Moodle 追加
- ver. 1.2.7 2013-04-03 ユーザ ID 関係の修正
- ver. 1.2.6 2013-01-16 「eラーニングに係る調査」追加
- ver. 1.2.5 2012-10-10 一部見出しの訂正
- ver. 1.2.4 2012-10-04 ユーザ ID 関係の修正
- ver. 1.2.3 2012-04-04 ユーザ ID 関係の修正
- ver. 1.2.2 2012-04-02 一部システムの登録削除

今後の課題

現状の熊本大学ポータルは、バックエンドのデータベースサーバが更新されたとはいえ、フロントエンドは古いバージョンであり、モバイル端末への対応等が不十分であり、他の認証システムやディレクトリサービスとの連携も狭い。今後、熊本大学 ID の本格的な運用に合わせて、バージョンアップやそのための適応を図っている必要がある。